

問題個体数の推移

1 推定方法

問題個体数の推定値は、出没年月日や出没地点等を考慮し、一定の条件を満たすものを同一個体と見なすことで算出する。「同一個体と見なす」方法には、出没情報間の日数差が近い方を優先する方法と、距離が近い方を優先する方法との2通りがあるが、ここでは日数差が近い方を優先する方法を採用した。

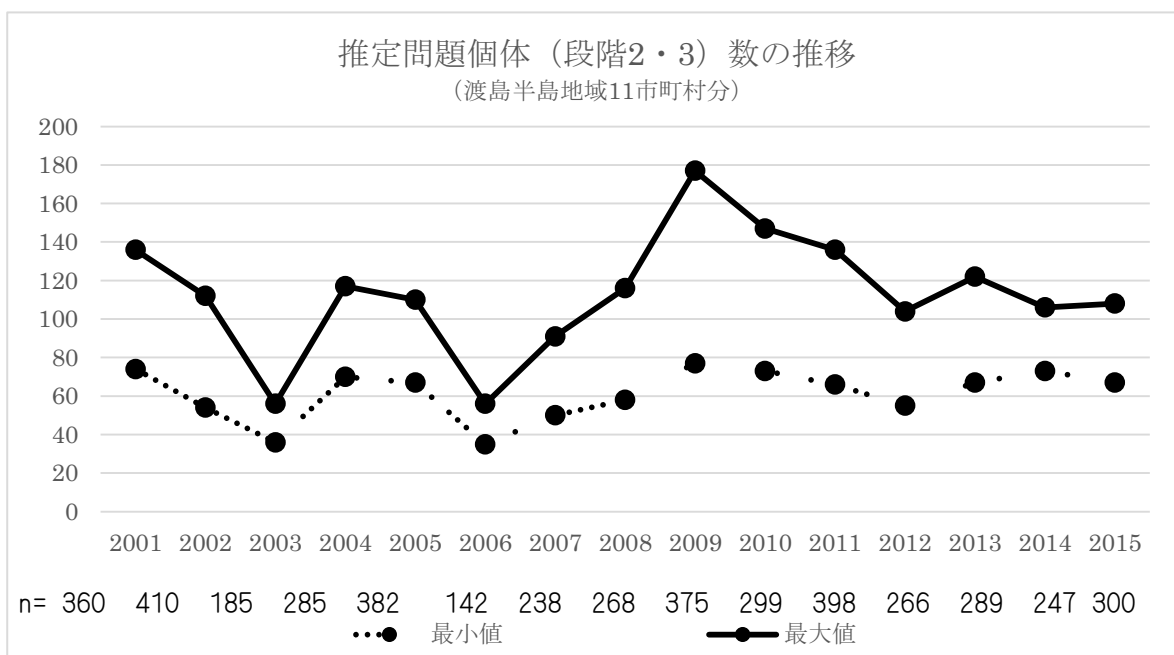
みなし同一個体の判定の際、別の個体の情報を同一個体のものとしてみなしてしまう可能性があることから、同一個体と見なす条件を厳しくした「最大値」と条件をゆるくした「最小値」の2つの数値を示した。

ここでいう問題個体は、有害性の段階が2以上の個体である。

なお、今回示した結果については暫定値であり、今後、数値が変更する可能性がある。

2 推定結果

(1) 渡島半島地域(対象市町村数：11 解析事例数：下図のn)



(2) 渡島半島地域以外

(対象市町村数及び解析事例数：H25=131 & 2, 192, H26=128 & 2, 459, H27=133 & 2, 846)

段階別推定個体数

